

歯科医院での実験的カフェの取り組み（1） ～Well-Beingを支援する医療者-患者関係の変容～

かわまたしゅんすけ
○川又俊介、文元基宝、森岡敦（NPO 法人関西ウェルビーイングクラブ）

【背景】診察室のみの関係の患者、診察室以外でも関係がある患者。臨床経験上、後者の方が医療行為の合意も得られやすく、健康教育も行いやすい。

【目的】診療の場面では、医療者-患者、健康教育者-対象者の関係が一面的になりがちで、双方向的なコミュニケーションを行うことが難しい。歯科保健の場面では日常の保健行動の在り方が問題となってきた。そのために来院者と相互の関係性を作ることが重要である。診療の場面から離れた環境でコミュニケーションの機会をつくり、そのことが健康教育、医療行為に及ぼす影響について検討する。

【方法】我々は歯科医院の待合室の一角でコンビカフェを行った。コンビカフェとは歯科医療者と患者が診察室以外で気軽に語り合える場をつくらうという試みである。毎回テーマを設定し、話しやすい雰囲気を作るために菓子、お茶、場合によっては若干のアルコール類などを用意した。頻度は月2～4回で、時間は診療時間内、お昼休み、診療終了後などである。テーマは「恋愛」「トイレ」「仕事」「ムシバ」「お金」など生活に密着しているものが多い。進行役は歯科医院スタッフ2名で持ち回りとしている。広報は3ヶ月ごとのチラシ、待合室の案内板、直接の声かけである。報告は歯科医院のブログで行った。

【結果および考察】コンビカフェから「変容」が観察された事例を解釈し記述する。なお事例はほんの一部であり確信的な明言は避ける。

1) ライフストーリーの共有

「仕事」をテーマに行ったとき、ある参加者

はライフストーリーを語った。『裕福な生活だったが、主人は仕事で借金を負った。主人は私を借金苦から解放するため離婚を承諾してくれた。主人に感謝している』。経済的価値だけが人生の価値ではないとの思いから、現在、生活の多くをボランティア活動に割いている。

2) 患者から先達者として

「町の歴史」をテーマに行ったとき、ある参加者は、この町に来てまだ日の浅いスタッフに、町の成り立ちや歴史を教えていた。「釣り」をテーマに行ったときには、釣り好きの参加者からスタッフが釣りの手ほどきを受けるなど、患者は先達者として医療者と関係した。

健康問題のみの関係から「生活を共にする関係」へと変容した。（詳細は発表時に報告）

3) コンビカフェ後の関係の変容

後日診療においてもコンビカフェでの話題が出るなど、より接近した関係性が表れる場面が出てきた。コミュニケーションが良好に展開し、医療行為、患者の行動変容に効果的に作用した。

医療者-患者関係の変容が健康教育、医療行為において影響を及ぼすことが示唆された。

【ラウンドテーブルでの主な論点】

Well-Beingを支援するために、医療者-患者、健康教育者-対象者は、どのような関係性が重要なのかについて話し合いたい。健康教育実践者の方の参加をお待ちしております。

連絡先：川又 俊介（NPO 法人関西ウェルビーイングクラブ、事務局：文元歯科医院）

〒537-0023 大阪市東成区玉津 3-8-6

shunsuke111ppp@yahoo.co.jp